

東秩父村の概要

秩父郡東秩父村は、都心より 60 km 圏で埼玉県の西部、秩父郡の東部に位置し、北は大里郡寄居町、東は比企郡小川町、南は比企郡都幾川村、西は秩父市と秩父郡皆野町にそれぞれ接している。昭和 31 年に大河原村と槻川村が合併して「東秩父村」になった。外秩父山地等の山々に囲まれた比企丘陵と秩父山地の会う位置にあつて、広域行政においては秩父郡ではなく東松山市や比企郡の自治体とともに「比企広域市町村圏組合」を構成し、比企圏域に属する。村の中央に流れている槻川沿いの地域では、1300 年もの昔からこの清流を利用して紙漉きが盛んに行われてきた。丈夫で美しい和紙は「細川紙」の名で知られ、その技術は国重要無形文化財に、製作用具と製品は国重要有形民俗文化財に指定され、工芸品としても高く評価されている。

村の総面積は 37.17 km²、その約 8 割が山林で占められている。東西 7.7 km、南北 10.5 km のほぼ正三角形の地形で、山の中腹や川沿いに集落が開けている。平成 17 年 5 月 1 日現在の人口は 3,917 人、世帯数は 1,121 世帯で、近年は人口が微減、世帯数がほぼ横ばいで推移している。埼玉県内でも高齢化が進行している東秩父村は、平成 9 年に老人保健施設「みどうの杜」を誘致して福祉サービスを充実させ、平成 10 年に安戸地内に「高齢者生きがいセンター」を建設、平成 10 年から小川町総合福祉センター「パトリアおがわ」の各施設を小川町民と同条件で利用できるように協定を結ぶ等、福祉サービスに力を入れている。

これまで基幹産業であった農林業は、産業そのものの衰退や都市化等の影響で厳しい状況にあるため、「和紙の里」をはじめとする観光レクリエーション施設や観光果樹園、観光農園、直売所、キャンプ場等のネットワークを利用して交流型産業への転換を図っている。特産物は、みかん、椎茸、蒟蒻、お茶等、特産品はクジャク草の切花等が知られている。

村内に鉄道はなく、専ら自家用車と東武東上線・JR 八高線・秩父鉄道「寄居駅」からの村営バス、東武東上線・JR 八高線「小川町駅」からの川越観光バスを利用している。道路は、村の南西方から中心部を抜けて東方へ主要地方道熊谷小川秩父線が走り、秩父市や小川町へと通じている。また、中心部から北方へは一般県道坂本寄居線が走り、寄居町へ通じている。村には主だった商業施設がないため、購買力は周辺市町に流れている。

今後は、和紙の手作り体験やそば打ち体験等ができる「和紙の里」が観光産業の中心として、また文化の中心となって、従来からの農村と調和をはかりながらも、自然を活かした新しい観光地を目指し、進んでいくものと期待されている。

平成 17 年 5 月 9 日作成